

第4章 学校評価の活用

4-1 全市共通の学校評価「うつのみや学校マネジメントシステム」を生かした実践

宇都宮市立五代小学校

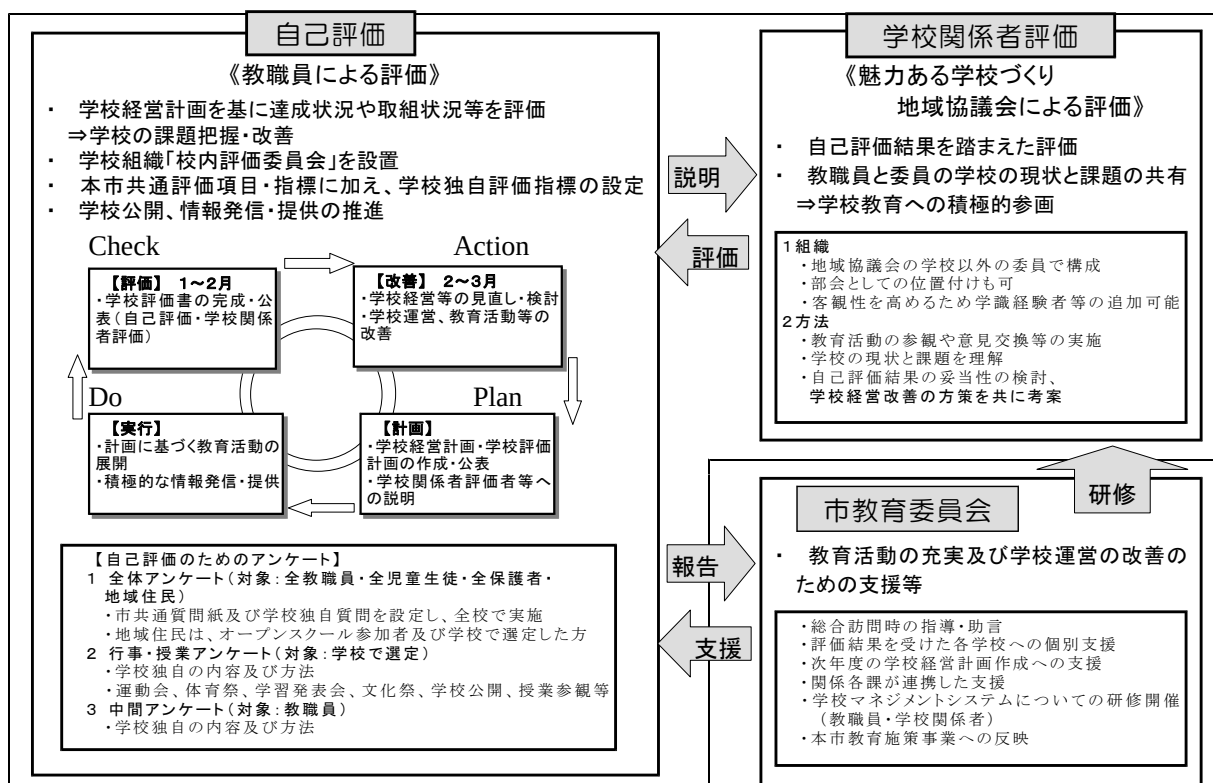
■取組のポイント

- 全市共通の学校評価の導入に伴い、校内評価委員会の設置や年間スケジュールの確認、校務分掌の明確化など、組織的な取組に必要な体制づくりを進めています。
- 評価指標の設定と数値化により、取組についての定量的評価を行い、達成状況の把握と改善に生かしています。
- 教職員・保護者・地域住民の共通理解を図る場として、魅力ある学校づくり地域協議会を機能させ、教職員以外の学校関係者評価を行うことで、学校評価（自己評価）の客観性を高めています。

■学校の概要

五代小学校は、宇都宮市のドーナツ化現象により形成された新興住宅地域に、昭和53年に創立された。平成21年5月1日現在の児童数は752人、24学級である。平成18・19年度の文部科学省指定「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」研究実践校として、「学校の自己評価と学校関係者評価について」及び「魅力ある学校づくり地域協議会の設立・活動」の実践研究を行った。平成20年度からは、市が導入した全市共通の「うつのみや学校マネジメントシステム」に基づき、学校評価の円滑な実施による学校経営の改善・充実に取り組んでいる。

資料1 うつのみや学校マネジメントシステム図



《「うつのみや学校マネジメントシステム」の目的》

- ① 学校経営改善のための学校評価と情報の発信・提供
- ② 地域に開かれた学校づくりの展開
- ③ 学校評価を踏まえた市教育委員会等からの必要な支援を受けることによる信頼される学校教育の推進

資料2は、「うつのみや学校マネジメントシステム」に基づく五代小学校学校評価書である。「4 今年度の重点目標」には、項目ごとに評価指標と具体的な取組、自己評価が示されている。評価指標は、全市共通（A）と学校独自（B）があり、4月に、学校で数値指標を設定し、具体的な取組を明記した学校評価計画書を作成する。評価計画書は、学校ホームページで公表し、保護者や地域住民に配布するとともに、6月の保護者会において各担任が説明をする。このことは、学校の方針や姿勢を家庭や地域にアピールするのに役立っている。実践については、夏季休業中に教職員による中間期評価を行い、11月には、教職員、児童、保護者・地域住民対象のアンケート調査を実施して、目標の達成状況をとらえ、次年度の方針を明確にしている。

資料 2 学校評価書

- 47 -

学校独自の評価指標（H20）を参考までに紹介する。

- | | |
|-----|---|
| B 1 | 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 |
| B 2 | 児童は楽しい学校生活を送っている。 |
| B 3 | 進んで運動に親しみ、健康の保持増進に心がけている。 |
| B 4 | 読書を好み、進んで本を読んでいる。 |
| B 5 | 授業や日常生活の多くの場において、自分の思いや考えを伝え合う活動を充実させる。 |
| B 6 | 道徳教育や授業、体験活動や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 |

2 学校マネジメント推進のための組織づくり ～「校内評価委員会」及び「評価部会」の設置～

五代小学校では、評価に関する企画・立案・推進を担う「校内評価委員会」を設置し、学校評価書作成に関わる手順や役割分担、年間スケジュール等を明確にしている。また、「学校運営部会」、「学年部会」、「保健安全部会」、「児童指導部会」、「学習指導部会」、「特色ある活動部会」を設け、評価指標及び数値目標の設定、取組についての検討、評価結果を踏まえた改善策の提案等を行っている。

今年度は、教職員による中間期評価を夏季休業中に行い、改善が必要なことは年度内であっても着手できるようにした。部会のチームリーダーは関係校務分掌の担当が務めており、他の分掌と連携しながら実践している。評価部会で検討することによって、今年度の重点目標や取組状況を定期的に確認することになり、一人一人の経験や工夫を生かしながら学校全体で取り組むという意識が、教職員のなかでも高まってきている。また、全職員がいずれかの部会に所属し、実践に基づく話し合いがなされることは、各自の行動目標設定や実践の振り返りにも役立っている。

資料3 「校内評価委員会」の構成員及び役割

主務者	主 な 役 割
校長・教頭	・学校経営計画や学校評価を中心とした学校マネジメントシステムについての説明（教職員や保護者、学校関係者評価者等） ・校内評価委員会の推進、教務主任や各評価部会のリーダーへの指導、助言 ・地域協議会での学校関係者評価の推進、学校経営計画書、学校評価書の学校ホームページ公表 等
教務主任	・学校マネジメント年間スケジュールと他教育活動や行事との調整 ・各評価部会リーダーへの連絡調整、助言 等
評価部会 チームリーダー	・評価指標、数値目標、自己評価の主な具体的な取組についての検討、設定 ・学校評価（アンケート調査）結果を踏まえた改善策の提案、実践 等

※「評価部会」：学校運営、学年部会、保健安全、児童指導、学習指導、特色ある活動

資料4 「年間スケジュール」

時期	自己評価	学校関係者評価
一 学 期	4月 ・校内評価委員会の設置 ・全体アンケート調査の地域住民選定	・本年度度五代小学校地域協議会委員の選任及び組織案作成 ・第1回五代小学校地域協議会（本年度組織の承認） ・第2回五代小学校地域協議会（本年度学校評価書作成に関する説明及び協力依頼） ・第3回五代小学校地域協議会（学校関係者評価委員会へ教職員の間中期評価について報告）
	5月 ・年間スケジュールの決定 ・各項目の評価指標、数値目標、自己評価の主な具体的な取組を設定、検討、修正 ・学校経営計画書、学校評価書を学校ホームページで公表 ・アンケート調査項目作成	
	6月 ・学校評価書及びアンケート調査項目を保護者、地域住民、学校関係者評価者に配布し説明	
	8月 ・教職員による中間期調査実施 ・中間期調査結果の分析、実践	
二 学 期	10月 ・授業参観日（全学級で道徳の授業公開）、アンケート実施	・第4回五代小学校地域協議会（進捗状況の確認、道徳の授業参観についての説明） ・第5回五代小学校地域協議会（自己評価書の検証と助言→学校関係者評価書作成）
	11月 ・オープンスクール実施 ・全体アンケート協力依頼/実施（児童・保護者・地域住民・教職員） ・校内評価委員会による自己評価→自己評価書作成	
	1月 ・学校評価書（自己評価書・学校関係者評価書）の公表	
	3月	

※年間を通しての配慮事項

- ・教育目標及び今年度の重点目標達成に向けた取組として適切か、検討する。
- ・重点目標達成に向けた取組を地域・保護者に分かりやすく情報提供する。
- ・行事後の反省・改善アンケート調査を行い、結果を改善に生かすようにする。

3 地域の学校づくり ～授業公開の工夫と学校関係者評価の実施～

(1) 授業公開の工夫

五代小学校では、授業参観や「オープンスクール」の案内を保護者や地域住民のほか、近隣の小・中学校や幼稚園・保育園にも出し、年間3回授業を公開している。前年度の反省をもとに、授業参観の方法や保護者への配布資料を改善し、学習環境の整備や授業づくりに努めてきた。平成20年度のアンケートでは「学校の公開や情報の積極的な発信・提供」について、保護者の89.3%、地域住民の92.4%が肯定的な回答をしており、前年度に比べ約12%高い結果となった。

教育活動への理解を図る取組として、今年度から、各授業の見どころを「授業参観内容一覧」にまとめ、参観の案内とともに事前に配布している。10月には、全学級で道德の授業を公開し、授業のねらいや学習の流れを示した資料（資料5）を各教室に置いて、授業アンケートを実施した。アンケートは、授業の分かりやすさや児童の様子、重点課題に関する項目について、参観者が4段階で回答し、感想や意見を記入できるように改善した。また、授業参観日の午前中に、学校地域協議会を開催し、授業のねらいや参観方法など学校の取組について説明もしている。

資料5 《授業参観配布資料》

授業アンケート ※授業参観日に保護者対象
回答は、次の中のあてはまる数字を○印で囲んでください
(1:とても思う 2:まあ思う 3:あまり思わない 4:思いません)

1	授業の意図、ねらいがよく分かりましたか。
2	児童が感動するような教材を使い、分かりやすく指導していますか。
3	児童は、授業に意欲的に取り組んでいますか。
4	児童は友達を思いやる優しい心が育っていると思いますか。
5	児童は、元気にあいさつや返事をし、ていねいな言葉遣いをしていますか。
6	校内は、学習にふさわしい環境となっていますか。

友情（ともだちだから）

資料名	内容	1年1組
「二つのことり」	主題について：友達と仲良く この詩の児童は、それが真の友情や信頼のぶつかり合いや、思いのこもった考えを表現しています。本内容は、友達とは、まじ合い、助け合う温かい存在であることに気付かせる学習です。やまがらの誕生日に招待されながらもうぐいすの家に住ってしまったみそぎの姿を通して友達関係について考えさせながら、人間関係を築くことの大切さやすばらしさを考えさせ、能動的なかわりができるようにさせていきたいと思います。	配布資料には、授業のねらいや工夫が参観者にわかるようにまとめられている。資料を作成することで、指導の重点を意識して授業に臨むという効果もある。

《授業の流れ》

資料を読み聞かせるときは、場面絵を活用し、児童がイメージ化しやすいよう工夫します。

みそぎの気持ちをより考えやすいよう、ペーパーサートを活用し役割演技させます。

友達をテーマにした「ともだちはいいんだ」を歌ったり、歌詞を掲示したりして友達のよさを意識化できるようにします。

《授業後》

「ありがとうカード」や「いいことみつけ」など日ごろから友達のよさを見つけたり、傳りの会などで発表したり、学級集会などでは、お互いのよさに気付くような活動を取り入れていきます。また、「こころのノート」の「ともだちといっしょ」を活用し友達とのかわりを意識させていきます。

(2) 教職員以外の学校関係者による評価

五代小学校では、教職員、保護者、地域住民、児童による全体アンケート調査（自己評価）とあわせて、魅力ある学校づくり地域協議会委員による評価（学校関係者評価）を行っている。

地域協議会は、学校や児童の状況について情報や課題を共有し、努力すべき点などを検討するよい機会となっている。地域協議会は、地域代表、PTA代表、学校代表で構成し、委員には、学校の取組や児童の様子等を直接見ていただける方を依頼している。会議を年間5回開催し、学校運営や家庭・地域による支援・協力等について協議する。

地域協議会で話し合われた内容や意見等は、資料を配布して教職員に伝えられる。学校からは、学校経営計画や教育活動の状況、アンケート調査などの自己評価の結果とともに、課題や改善策、今後の方向性について説明している。学校としての取組や少しでも改善したことを積極的に発信するようにしており、教職員からも率直な意見を出してもらっている。評価委員からは、授業参観の方法や安全指導など、学校経営上の様々な意見が出され、学校では、今後、さらに、学校、家庭、地域が連携協力する教育活動の充実につなげていきたいと考えている。

取材を終えて

五代小学校では重点目標を意識し、より成果をあげるためにできることを自分たちで考え提案する動きが出てきている。全市共通の学校評価導入を機に、校務分掌を生かした協働の仕組みを機能させ、教職員全体で教育活動取り組むという意識向上につなげた事例である。

4-2 学校評価を生かし、信頼される学校づくりを目指す学校経営

足利市立東山小学校

■取組のポイント

- 学校評価を経営の改善に生かす11のポイントを基盤にした取組や、評価項目を従来の4分の1近くに絞り込んで、重点化した取組を行っています。
- 月例の職員会議は行わず、年度当初に各部各係の会議をまとめて行います。また、年度当初に配布した職員必携の学校概要（『東山小の教育』）を随時活用して、教育目標や教育活動についての共通理解を図っています。
- 会議を精選して生み出した時間を、一人年一回の研究授業に充てるなど、校内研修を充実させています。
- 行事が終わるとすぐに評価を実施したり、学校評価の作業も一堂に会して行ったりするなど、評価や改善にかかる労力の軽減にも努めています。

■学校の概要

東山小学校は、平成12年に助戸小学校と相生小学校との統合により誕生した。緑濃い東山を背にした静かで落ち着いた学校である。児童数は約280名、よくあいさつをし、よく読書をする児童たちであり、学習や運動に活発に取り組んでいる。

学校教育目標として、『考える子・やさしい子・たくましい子』を掲げ、学校評価を学校経営の改善に生かし、信頼される学校づくりのために、組織的かつ協働的に教育実践に取り組んでいる。

1 目標の具現化と評価を生かした改善

(1) 学校評価を経営の改善に生かす11のポイント

学校評価を学校経営に生かして組織的・継続的に改善していくことは、教職員の協働の上に成り立っている。したがって、学校評価を生かすことは、教職員の協働性を高めることでもある。東山小学校では、学校に対する保護者や地域からの信頼を高め、教育活動の質の向上を図るために、PDCAサイクルの中での「学校評価を生かす方策」として「11のポイント」を定め、それを基盤にして様々な取組を組織的に積み重ねている。

学校評価を生かす方策 11のポイント

P (Plan) 目標…学校経営のビジョン

- 1 内外環境を正確に把握し、見定め、掘り起こす。
 - ・恵まれた条件（人的、物的、教育課程、地域等）に目を向けて、目標設定に生かす。
 - ・それぞれの学校らしさ、良さが生み出せる。
- 2 絞って、わかりやすい目標を立てる。
 - ・課題を精選し、重点化することで、目標の共有化が図れる。
 - ・目標を具体化することで、目標が明確になり、客観的な評価につながる。
- 3 見通しを持つ。
 - ・いつ、誰が、どのように実践するのかの手だてを考える。
- 4 学校をより良く改善しようという意識を高める。
 - ・教職員と保護者とが共通の認識を持てる場を、効果的に設定する。

D (Do) 実践…計画的、組織的な実践

- 5 学校が組織として動く（協働）。
 - ・校務分掌の職務内容を明確にする。
 - ・教職員で協働する場をつくり、協働する喜びを感じる体験を持つ。
- 6 仕事の優先順位を決める。

C (Check) 評価…生かせる評価

- 7 評価項目（内容）を重点的に絞る。
- 8 評価結果を多面的に議論し、改善策を考える。
 - ・評価結果や学校経営の見方を磨く。教育についての専門的な識見を高める。
 - ・目標を具体化することで、目標が明確になり、客観的な評価につながる。
 - ・「あれも、これも」型から、「順を追って」型で実践する。

- 9 マイナス評価も受け止める。
・評価の背景や根拠を探り、対策を考える。
- 10 改善策について、展望と見通しを持つ。

A (Action) 公表・改善

- 11 改善されて、学校が少しずつ変わってきていること実感する。
・改善の成果を明確にし、教職員や保護者に伝える。
・評価結果の改善策を公表する。

(2) 評価項目の重点化 ～130項目から35項目に精選～

東山小学校では、平成18年度当時、各部各係の「努力点」に定めた「努力の方向（具体化の方向）」の総数が130項目あった。学校評価に際しても同じ項目で評価をしていたために、その作業が繁雑であるばかりでなく、評価結果を改善に生かすにも、重点化が図りにくいことがあった。そこで、平成19年度には、目標の重点化を行い、35項目に精選した。

平成18年度当時の教育目標（130項目）

努力点	項目	努力の方向（具体化の方向）
1 教職員の自主性と創意工夫を尊重し、新しい校風樹立を目指しながら調和のとれた学校運営の推進を図る。 ・創意ある教育課程の	ア 教育課程	・児童自らが学び、考え、行動できるような場の設定に努める。 ・地域の特性をふまえた総合的な学習の時間を目指して実施する。
	イ 校務分掌	・本校の特色が出せるように各校務分掌において工夫を凝らし、積極的な提言をするよう努める。
10 保護者や地域社会との連携を図るために、家庭や地域に開かれた学校づくりに努める。 ・保護者との信頼関係づくり ・地域の教育力の活用	ア 保護者との連携	・授業参観や学年部会、学級懇談、学年だより等を通して、学校や学級担任の指導方針が伝わるように語りかける。 ・保護者への連絡を密にし、話を聞く機会を多くする。 ・欠席児童への対応は「学級保健計画」に従い、積極的にいき、保護者との信頼関係を深めていく。
	イ 地域の教育力の活用	・保護者や地域の高齢者、専門的知識や技能を有する方などの人材リストを作成し、教育活動全般に活用する。 ・地域の体験活動の場や施設等のリストを作成し、有効に活用する。
	ウ 学校公開	・学校での教育活動を地域の方に公開するため、学校公開日として年間2回、終日授業参観を実施する。（地域へは回覧板、幼稚園等へは案内状を送付。）

平成19年度に改訂した教育目標（35項目）

本年度の努力点と具体策

(1) 創意ある学校経営

- ① 保護者や地域の意見等を参考にしながら、自己点検・自己評価を行い、絶えず見直し改善に努める。（教職員の自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、行事反省、学校評議員会）
② 教職員の特性を生かし、組織体として協働する学校体制づくりに努める。（「東山小の教育」、報告・連絡・相談、校務分掌表）

(2) 教職員研修の充実

- ① 学習指導改善に向け、研究授業等を通して教師一人一人の実践的指導力の向上に努める。
・わかる授業のための教材研究
・基礎・基本の定着を図る指導法の工夫
・一人一人を把握し、個の学びを育む学習指導の改善
② 人権教育研修に継続して取り組む。（被差別体験者との交流）
③ 研修会に積極的に参加したり、書籍等の情報を得たりして、自己研鑽に努める。

(3) 学習指導の充実

- ① わかる授業の展開により、自ら学ぶ意欲・態度や基礎・基本の内容を確実に身に付けるための指導の充実

(9) 人権教育の推進

- ① 市教委指定人権教育研究（「子どもの不安や悩みを受け止め、共に生きようとする教師」）の継続実践を推進する。（把握と関係づくり）
② 様々な人権問題に悩む児童をより早く察知し、より確かに支え励ます指導体制づくりに努める。（同和問題、日本語指導）
③ 「視点やチェックポイント」を自校化し、児童の不安や悩みなどを把握するための実践的研究を進める。（チェックポイント）

（３）評価を生かした改善 ～行事が終わったらすぐに反省～

学校行事などが終了次第、改善点について気づいたことをすぐにメモする。担当はそれを簡単にまとめて、朝の打ち合わせで全職員に報告する。学期や年度ごとの評価の機会を待たずに、反省点を着実に改善に生かすようにしている。

２ 職員の協働性を高める取組

（１）教育目標や教育活動についての共通理解 ～職員必携の『東山小の教育』～

東山小学校では、各部各係の指導計画等をまとめた『東山小の教育』と題した資料（ファイル形式で全約250ページ）が、年度当初に、全職員に配布される。４月当初に３日間に渡って開かれる職員会議で、ほぼすべての係から年間の指導計画等が説明され、全職員で共通理解を図る。これにより、誰もが見通しをもって教育活動に当たることができる。

この資料は「Ⅰ 学校の沿革の概要」から始まり、「Ⅱ 学校の概観」には、「学区の状況」や「学区図」も掲載されている。新任の職員はもとより、誰でも学校の教育活動について確認したい場合には、これを読めば分かるように、バイブルとして編集されている。

この他、『東山小の教育』には次のような特長がある。

- ・ ページ数がローマ数字と算用数字で組み合わされているため、年度途中に追加資料があっても、ページのずれが生じることなくファイリングすることができる。
- ・ 打合せ等で指定のページを開く際には、例えば「Ⅵ－１－①を開く」などと指示すると、複数の人が同時に検索しやすい。

平成21年度 東山小の教育（学校概要） 目次

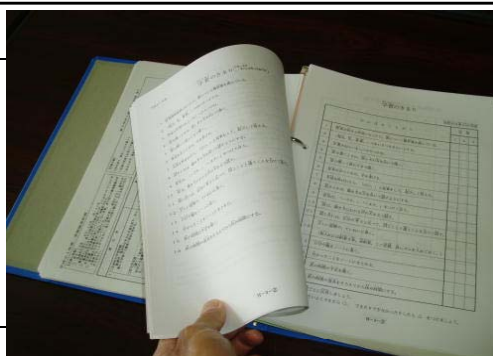
- Ⅰ 学校沿革の概要
- Ⅱ 学校の概観
- Ⅲ 学校経営概要
- Ⅳ 教育課程
- Ⅴ 現職教育

Ⅵ 学習指導部の指導計画

１	学習指導全体計画	Ⅵ－１－①～②
２	少人数指導計画	Ⅵ－２－①～②
３	学習のきまり	Ⅵ－３－①～⑥
４	「読む・書く・計算・聴く」力の育成	Ⅵ－４－①～③
20	食育指導計画	Ⅵ－20－①～③
21	校外学習指導計画	Ⅵ－21－①～②
22	対外応募指導計画	Ⅵ－22－①～⑤

Ⅶ 児童指導部の指導計画

- Ⅷ 学校運営規則
- Ⅸ 事務部
- Ⅹ 菜の花会 会則



（２）会議の精選と校内研修の充実 ～一人一回の授業公開～

『東山小の教育』の共通理解に際しては、４月当初の職員会議で十分に時間をかけている。それ以後は年間を通して会議をできるだけ開かず、説明資料の配布等で済ますようにしている。そうして生み出した時間を、ブレインストーミング技法やKJ的手法を取り入れた授業研究会などの校内研修などに充てている。一人一回の研究授業や、その事前研究などで、年間32回の校内研修に取り組んでいる。このような取組を通して職員の協働性が高まっている。

(3) 学校評価の作業も協働で ～全職員で一斉作業～

12月に行う職員による学校評価の際には、放課後の時間帯（約1時間半）に、全職員が職員室で一斉に評価表に記入し、数人の担当がデータをその場でパソコンに入力する。表計算ソフトを使うことで、自由記述を除けば、翌日には集計結果が算出され、評価の集計にかかる時間と労力を大幅に削減することができた。また、評価結果をその後の指導や次年度の計画づくりに即座に反映することができている。

なお、この学校評価は、35項目の重点目標がそのまま評価項目になっている。

3 学習指導上の取組

(1) 基礎・基本の定着 ～『らいでんぼくチャレンジ』の活用～

東山小学校では、学習の基礎・基本の定着を図る取組として、『らいでんぼくチャレンジ』という冊子を作っている。この冊子には、国語、算数、音楽、体育に関する、第1学年から第6学年までの問題や課題などを掲載している。児童に家庭学習として取り組ませたり、個に応じた指導のテキストとして活用したりしている。国語と算数には、「ごほうびシール」を貼る欄があり、児童にとっては学習の成果を先生に認められることで意欲が向上するよう工夫されている。中には、現在の学年よりも上の学年の課題に挑戦する児童もいる。

この取組は、12月に行う「保護者アンケート」や、学期ごとに行う児童へのアンケート（「今学期の学習と生活を振り返りましょう」）で検証される。

『らいでんぼくチャレンジ』の構成

- 国語：漢字の書き取り1006字(25ページ)
- 算数：計算問題1000題(26ページ)
- 音楽：演奏できるようになって欲しい13曲を紹介。
- 体育：「持久走」「ボール投げ」「なわとび」など12種目について、ABCの三段階の目標を示す。

取材を終えて

評価項目の重点化や、効率的な評価活動など、学校評価に関する工夫が随所になされている。一人一回の研究授業や、全職員で一斉に行う学校評価の作業といった取組からは、東山小学校の協働性の高さの秘訣が垣間見られた。『らいでんぼくチャレンジ』の活用による学力向上策にも一日の長が感じられた。